

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495100438	事業の開始年月日	平成30年7月1日
		指定年月日	平成30年7月1日
法人名	有限会社太陽		
事業所名	太陽ケアセンター グループホームやまぶき		
所在地	(212-0005) 川崎市幸区戸手1-8-10		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年1月12日	評価結果 市町村受理日	令和3年6月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

☐ 運営方針「明るく健康で生きがいのある施設を目指す」を目標に支援を行っています。

☐ 医療・歯科・薬局・包括支援センター・役所等の介護保険関係機関と密に連絡を取り、きめ細かいサービスを提供することにより、長期にわたり継続した看護・介護を受けることができます。

☐ 手作りのお食事提供を心掛け、お正月・節分・ひな祭り等の行事食の提供により、季節を味わっていただいています。また年間行事では地域の皆さまとの交流を行っていましたが、今年はコロナ感染の流行により行えていませんが、時期を見て再開を考えています。

☐ 日々のレクリエーションでは、体全体を使った運動・脳トレゲーム・合唱等を行っています。

☐ 入居者様やご家族の思いを聞き、ご本人やご家族に寄り添ったケアを心がけています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年3月22日	評価機関 評価決定日	令和3年6月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR「川崎」駅西口から市営バスで約10分の「戸手一丁目」で下車し、徒歩1分の国道一号線(第二京浜)に面した場所にあります。グループホームは、6階建ての複合型介護施設の2階と3階にあります。1階には地域交流スペースがあります。4～6階には、住宅型有料老人ホームとなっています。

<優れている点>
コロナ対策として、昨年、事業所感染の懸念を払拭するため、厳格な体制を取っています。職員のPCR検査、職員シフトの変更、フロアに入る職員を限定、コロナ用ガウン着用や消毒の徹底、施設出入りは外階段利用、利用者の個室対応、調理室の配置変更により、利用者も職員も緊張感やストレスを受けながらも感染を防いでいます。家族の面会訪問はできませんが、玄関越しに家族と面談し、利用者の姿を現認できるようにしています。

<工夫点>
食事は、職員の献立と料理の手作りにより、利用者に食欲を生む工夫に努めています。法人の農園から野菜(大根、小松菜)の提供があります。正月のおせち(きんとん、黒豆、なます、かまぼこ、だて巻き、赤飯)、各月の誕生会の料理(焼きそば、ピザ、牛丼、太巻き)、イベント料理(ホットケーキ、チキンナゲット)など多彩です。台所はオール電化で安全性に配慮し、職員と利用者が一緒に調理できる広いカウンターテーブルがあります。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	太陽ケアセンター グループホームやまぶき
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を職員がいつでも確認できるように、グループホームの玄関の見やすい箇所に掲げています。「顧客・従業員・地域・会社を取り巻くすべての人が幸せになれるように、職員全員が同じ方向を向き、利用者様の毎日の安心の安全を常に心がけて、毎朝のミーティングで確認しています。	事業所の理念「顧客、従業員、地域、会社を取り巻く全ての人々が幸せになれる会社を目指します」は、グループホームの玄関の見やすい場所に掲げられています。理念の共有と実践を図るために、毎朝のミーティングに確認して実践につなげています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年はコロナ感染拡大があり、思うように地域の皆さまとは交流ができませんでしたが、敬老の日にはボランティアの方のフラダンスがあり、皆さま・職員も一緒に踊ったりして、楽しいひと時を過ごしました。	地元町内会に加入しています。これまで町内会の案内に応じて、夏祭り、神輿に参加していましたが、コロナ禍の影響でほとんど中止となり交流ができません。その中でも、地域交流としてボランティアによるフラダンスでは、利用者・職員が参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域推進会議・町内会とのつながりを通じて、事業所を理解していただけるように努めています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	1回/2か月・の推進会議への利用者・包括・民生委員・サービス事業所などの地域の皆さまに参加していただき、毎月の行事・行っていること・問題となったこと等の報告をし、また皆さんからの意見をいただき、今後に生かしています。	2ヶ月ごとに運営推進会議を開き、利用者・地域包括支援センター職員・民生委員・職員が参加し、運営状況、利用者の生活の様子や質疑を行っています。コロナ禍にあって、年間6回予定のうち、3回の対面会議が開かれています。残りの3回は、報告書の提出に変えています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域の高齢障害担当課等関係部署・包括からの入所の問い合わせ・市の高齢事業推進課への相談等密接に連携を取り、報告連絡相談に努めています。	川崎市幸区の生活保護第2課、高齢障害課、介護保険課とは、利用者の相談・連絡をはじめ、行政関係の手続きや通知の説明のため、常に連携を図って協力関係を維持しています。具体的には、特養入居時に適用される、住所地特例の適用について、相談を行った事例があります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員への研修を通じて、具体的に身体拘束とは何かを、徹底して考えてもらい、自分の行動を常に振り返れるように、定期的に振り返り、朝のミーティング時にも、事例を使って話をしています。	ほぼ3ヶ月ごとに6人程度の参加により、身体拘束廃止委員会を開催しています。身体拘束のないケアの実践を図るため、定期的なミーティングにより職員の共有認識や取り組む姿勢に努めています。また、事業所前が国道のため、事故、防犯、徘徊など危険防止のため、玄関の管理適切に行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全職員対象の研修会・また日常の業務の中で「虐待をしていないか」の自身の振り返りのアンケートを取って、自分の問題として、考えるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者として、定期的に成年後見制度についての研修会へ参加をしています。今後職員対象に成年後見制度・権利擁護の学習をしていく予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、本人ご家族・関係者・事業所からは管理者等2名参加で、詳細を説明し、質問等には細やかな説明を心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の訪問時（今は感染の問題もあり、玄関の扉越しの面会）などに要望をお聞きしたり、ご家族とのラインを通して、情報交換をしています。	利用者や家族には、運営推進会議や来訪時に気楽に意見・要望が表せるように努めています。電話、手紙やネットのラインを通じて情報交換を行い、多く意見や要望を出してもらえよう配慮しています。今年1月からは、利用者の要望により、夕食時に手作り料理を取り入れています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月例会議・朝のミーティング時などに職員からの意見や要望を聞き取り、運営に反映させるようにしています。	職員は、月例会や朝のミーティング、申し送りノートで意見などを伝える事が出来、管理者は日頃からも聴くように努めています。指示が伝わらない、との職員の指摘から、朝礼内容を回覧し、情報の共有を図っています。困った時には、フロアリーダーにつないでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の日々の活動内容の把握・評価をしそれを給与等に反映させるようにしています。外部研修のお知らせや介護関係の資格習得を促し、またできるだけ本人の休日の希望を聞いています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員を対象とした毎月の報告会・勉強会を通して、個人の職員としての意識の向上を目標にしています。また輪番制で司会・書記・講師役を行っており、グループホームの一員としての意識付け動機付けに繋がるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修のお知らせあるときなどは研修への参加を促し、同業・他業種のとの交流の機会を持てるように配慮しています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始時に、本人から、生活歴・本人の好きなこと・ご本人のこだわっていること等をお聞きし、入所初期の段階で、信頼関係ができるように傾聴に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約締結時や事前訪問時に、ご本人の在宅での生活のことや、ご家族の希望・心配なこと等をお聞きし、支援計画書に生かしています。またご家族とラインを通し、情報交換を密にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族が何に対して心配しているのかまた何に対して希望をしているのかを確認し、見極めし必要に応じて外部のサービス利用も検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者・職員は24時間一緒に時を過ごしているので、疑似家族のような関係性もできてきます。それは介護するもの・介護されるものという枠を超えて、お互いの人生を共有し、時に利用者の発する言葉の中から、人生の先輩としての知恵をいただいたりしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が気軽に相談できるような対応を心掛け、普段の生活の様子などをお知らせしたりまたラインを通じての家族の要望・相談に応じています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族友人の訪問もコロナ下でも玄関越しですが、行っています。またご家族からの電話には、ご本人も出て話をしていただき、安心していただいています。そのほか手紙をお出しし、ご本人の近況をお知らせしています。	コロナ禍で、利用者との面会は中止していますが、いつでも玄関越しに距離を取り、元気な様子が見られるように配慮しています。家族には、電話の取次や事業所での生活写真を送り、つながりの継続や支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方同士を近い席に座っていただいたり、反対に性格の合わない方の席の移動をし、全体としてまとまりのある環境作りをしています。利用者同士かるた遊びをしたり、しり取りをしたりして、楽しい環境作りを目指しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても、職員を懐かしんで訪問してくれるご家族もあり、その際にご家族の近況を知り、必要に応じて相談支援を行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者によっては、地元の施設で生活をしたいとの希望のある方には、施設を調べて情報提供をしたり、また別居しているご主人を心配している方には、毎晩電話をしあい、お互いに安心していただけるようにしています。	一人ひとりの思いや生活の希望・要望については、入居時の確認だけでなく、普段から居室の会話、入浴時やおやつ時に把握に努めています。意思表示の困難な利用者には、表情や仕草から声掛けや介助支援を行いながら確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用時や入所後の会話の中から、ご本人の生活歴を知るように努めています。生活歴を知ること、今のご本人につながっていることを理解・共感して、支援につなげていければと思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のご本人との会話の中からまた職員の報告の中から、利用者の方の心の中の、発言していない思いも組み取りながら、また現在の持っている力・そして今後の経過の予測をし、よりよい支援につなげるように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	サービス担当会議・運営推進会議・スタッフミーティング・日々の報告により、介護プラン作成に反映しています。	介護計画を作成するに当たり、利用者・家族、医師・看護師、関係者の希望や意向・意見を聞き、従事職員、フロアリーダーによるサービス担当会議・スタッフミーティングで、短期計画は3ヶ月ごと、長期計画は6ヶ月ごとに介護プランを見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を具体的に記入し、また特に大切な情報は、朝ミーティング時に情報共有をして、必要に応じて介護計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者が気兼ねなく相談できる環境作りをしながら、その時々生まれる希望・要望に応え、外出介助・通院介助などにも対応。またご家族の希望により訪問マッサージの導入もしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ以前は近所の盆踊りに行ったり、地域の公園へ行っていました。今はコロナの心配あり行けていませんが、お誕生日会などに地域のボランティアが来てフラダンスを披露してもらいました。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約時にかかりつけ医についての説明をし同意を得ています。入居前からのかかりつけ医を希望の方には、定期通院同行なども行っています。往診は2回/月で、グループホームの看護師が同席し説明、また助言等をもらっています。	内科医は月に2回の往診と、緊急時必要な場合には臨時で診察があります。精神科往診は月に1回、歯科は月に2回の往診です。外来受診は家族や事業所職員が同行していますが、定期通院は職員が行っています。外来受診が家族だけの場合は、診察結果を聞き、医師や職員と共有しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設内看護師が毎日活動しており、利用者の情報交換を毎日行っています。またスタッフからの相談に乗ってもらい、アドバイスを受けていたりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族・病院・主治医との連携を図り情報提供をしています。ご家族とは頻繁に連絡を取り、経過の情報共有をしています。また必要に応じて病院での退院時カンファレンスへの参加を行い、退院後の円滑なサービス提供につなげています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期へのご本人やご家族の意向を踏まえて、施設での看取りの時期には、病院・主治医・職員との協同により、最後までご本人の安楽・平安を皆で目標に支援をしています。また重度化した場合、ご家族・主治医との意思疎通を図り、方針を共有し支援をしています。	看取り研修、マニュアルの作成をしています。契約時には看取りについての意向を必ず聞いています。独居の人で、事業所の看取りを希望していた利用者の希望を叶えるため、事業所内でケアや介護方針も決めて看取り、遺骨を親戚に送り、最終報告まで対応した事例があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全ての職員が対応できるように日頃からケースの研修をし、またマニュアルを用意し、ステーションに掲げています。万が一事故が発生したときは、その原因・対処の是非を、職員で話し合い、今後の活動に生かすようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、実際に台風の時などには職員が泊まり込んで、利用者の安全確保に努めています。備蓄品の用意をし定期的に補充をしています。	避難訓練を行い、消防署への自動火災報知設備やスプリンクラーの作動確認をしています。事業所は川からも近い場所にあるため、万が一の避難場所を決めています。職員連絡網により、すぐに集合できる職員の把握をし、マニュアルの更新も行っています。	避難訓練は、通報訓練も加えて行い、また、夜間を想定した避難訓練も入れ、ほぼ半年ごとに行うことが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の性格や趣向を知り、その方のプライドを傷つけないような言葉がけをし、定期的に職員への評価、課題のある職員には指導をし、利用者の人格の尊重・尊厳を傷つけないように努めています。	行動に問題がある利用者には、利用者同士の距離を保ち、本人の話に理解を示しながら、関心を他へ向けることで問題回避が来ています。職員には、プライバシー対応のマニュアルを渡し研修をしています。入浴介助は同姓介助を心掛け、必要な場合は応援をもらい同姓での介助としています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の中から、ご本人の表出する言葉の中から、普段は表に出ない思いを察知し、またその思いを表出でき、自己決定できるように働きかけをしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の意向を第一に、例えば入浴が嫌いな方へは、入浴回数について本人の意向を聞き、自己決定を尊重することで回数減にし、ご家族への説明を行っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	近隣の理容師さんが定期的に来ていましたが、コロナの関係で、今は手の器用な職員が髪のカットをしています。衣替えの時期には、不足な衣類・ご希望の品物等をご家族に連絡をし、持参していただいています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お誕生日会の他に節分・お正月・クリスマス・ひな祭り・節句・七夕など利用者様が一緒に楽しめるように、一緒にレクリエーションも行いながら食事を楽しんでいただいています。時には利用者様も調理やトッピングの盛り付けに参加していただいています。片付けの協力もしていただいています	専門の調理職員が食事を手作りしています。利用者は、食前食後の用意や片付け、誕生会の時にホットケーキの盛り付けなど、出来る事に参加しています。行事食や誕生会などで、外食を注文をしたり、五目弁当などでも食事を楽しんでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の全身状態の観察・把握に努め、朝・昼・夕・10時・3時・入浴後等、随時水分の摂取に努めています。またお好みでご本人の嗜好品（牛乳等）をお出ししています。またご家族からの副食等の差し入れも受け入れており、その際はグループホームの副食の調整をし、適正なカロリー摂取に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの実施は、口腔スポンジ・マウスウォッシュ等ご本人の口腔内の状態に応じて対応しています。また必要な方には訪問歯科も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各利用者の排泄記録表を使用し、本人の排泄パターンを把握しています。そのうえでご本人への声掛け・誘導を行い、ご自分でできることは行ってもらうように支援をしています。	日常は排泄時間を確認しながら声掛けをしたり、利用者からの、呼び出しで排泄介助しています。夜間歩行が出来る人には声を掛けてトイレ誘導をしています。歩行が厳しい方はおむつ対応です。利用者によっては時間の経過と共に自立歩行まで回復でき、一部介助で対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事は消化に良いものを心がけ、利用者ごとに排便の傾向を把握し、必要に応じて、DRへの報告・相談を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	季節に応じて、入浴剤の使用をしたり、また入浴を嫌がる方には、回数の工夫・声掛けによって意思確認したり、その方の意思決定を尊重した入浴を行っています。	入浴は週に3回です。基本は午前中の中の入浴で、利用者によっては、すべてが自立をしている人もいます。3回を基本にしているため、入浴を拒む利用者の3回目は、気分が良い時に入浴しています。職員は和やかな雰囲気作りを心掛けています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の睡眠パターンを把握し、リビングの照明を徐々に落としたり、TVの音楽も穏やかなものにし。入眠しやすい環境作りをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	DRの訪問診療後、薬局の訪問時に、薬の説明を受けたりまた施設の看護師に薬の相談をしたりと、利用者の情報交換を行っています。また食後、寝る前の服薬等、チェック表を用いて、服薬漏れがないように支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お誕生日会・季節ごとの行事への参加・レクリエーションへの参加・その方によっては、食事後の後片づけのお手伝いをさせていただいたりしています。またコンビニへ買い物スイーツや嗜好品の買い物や郵便局への同行などもおこなっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日用品の買い物・郵便局・コンビニ等に同行していますが、今年はコロナ感染の心配もありますので一昨年のように盆踊りへの参加やレストランへ行ったりなどはできませんが、感染予防に努めて、なるべく時間を選んだりして同行しています。	コロナ禍の状況のため、積極的な外出は控えていますが、郵便や、預金の引き出し、通院介助など、外出の必要がある利用者には、職員と外出しています。気分転換の必要な利用者には、近くの公園まで散歩をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者によっては、少額のお金を持って買い物をしたいという方もいますので、その時には一緒にお金の計算をしたり、さりげなく支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族との毎日の安否確認の連絡時の支援や金融機関や証券会社への問合せ時などに、本人の意図することを相手先へ説明したり、友人へのお手紙の返事などで、住所の確認や切手の手配などの支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じていただけるように玄関・食堂などには、季節に応じた飾りつけを、利用者の協力も得ながらしております。住環境への配慮として、エアコン・加湿機能の空気清浄機を各階に取り付けています。ご本人の部屋には、自身の作品を飾って楽しんでいただいています。	共用空間に観葉植物や花を飾っています。リビングを兼ねた食堂には、いつでも座れるソファが置いてあり、日中は、利用者同士が静かな時間の中で話しができる工夫をしています。季節感のある飾りを作成したり、壁には日めくりカレンダーを掛け、日にちの感覚を持てるような工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様が集まる食堂にはソファを置き、自由に座ってくつろいでいただいています。テーブル席も利用者様の性格に配慮し、ご本人が孤立しないように席順も気の合う方同士などの配慮をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の好きな日用品を手元に置いたり、自宅から持ち込んだ掛け軸などをかけて、居室もなるべくその方がくつろげるように配慮しています。	テレビや持ち込みの加湿器・写真・掛け軸など、利用者の好みの雰囲気を持った部屋作りをしています。家具の配置で、麻痺のある人はベッドの位置を工夫したり、放尿癖がある利用者には何度かベッドの配置を替えてみるなど工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人の力を見極め、就寝時転倒リスクのある方には低床ベッドや床にもマットレスを敷いたり・離床センサーの利用など安全に配慮しています。またトイレへ行ける方には、見守り介助をし、ADLが低下しないよう、過度な介助を控えるようにしています。		

事業所名	太陽ケアセンター グループホームやまぶき
ユニット名	3階

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらい
			3, 利用者の1/3くらい
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を職員がいつでも確認できるように、グループホームの玄関の見やすい箇所に掲げています。「顧客・従業員・地域・会社を取り巻くすべての人が幸せになれるように、職員全員が同じ方向を向き、利用者様の毎日の安心の安全を常に心がけて、毎朝のミーティングで確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年はコロナ感染拡大があり、思うように地域の皆さまとは交流ができませんでしたが、敬老の日にはボランティアの方のフラダンスがあり、皆さま・職員も一緒に踊ったりして、楽しいひと時を過ごしました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域推進会議・町内会とのつながりを通じて、事業所を理解していただけるように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	1回/2か月・の推進会議への利用者・包括・民生委員・サービス事業所などの地域の皆さまに参加していただき、毎月の行事・行っていること・問題となったこと等の報告をし、また皆さんからの意見をいただき、今後に生かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域の高齢障害担当課等関係部署・包括からの入所の問い合わせ・市の高齢事業推進課への相談等密接に連携を取り、報告連絡相談に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員への研修を通じて、具体的に身体拘束とは何かを、徹底して考えてもらい、自分の行動を常に振り返れるように、定期的に振り返り、朝のミーティング時にも、事例を使って話をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全職員対象の研修会・また日常の業務の中で「虐待をしていないか」の自身の振り返りのアンケートを取って、自分の問題として、考えるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者として、定期的に成年後見制度についての研修会へ参加をしています。今後職員対象に成年後見制度・権利擁護の学習をしていく予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、本人ご家族・関係者・事業所からは管理者等2名参加で、詳細を説明し、質問等には細やかな説明を心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の訪問時（今は感染の問題もあり、玄関の扉越しの面会）などに要望をお聞きしたり、ご家族とのラインを通して、情報交換をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月例会議・朝のミーティング時などに職員からの意見や要望を聞き取り、運営に反映させるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の日々の活動内容の把握・評価をしそれを給与等に反映させるようにしています。外部研修のお知らせや介護関係の資格習得を促し、またできるだけ本人の休日の希望を聞いています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員を対象とした毎月の報告会・勉強会を通して、個人の職員としての意識の向上を目標にしています。また輪番制で司会・書記・講師役を行っており、グループホームの一員としての意識付け動機付けに繋がるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修のお知らせあるときなどは研修への参加を促し、同業・他業種のとの交流の機会を持てるように配慮しています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始時に、本人から、生活歴・本人の好きなこと・ご本人のこだわっていること等をお聞きし、入所初期の段階で、信頼関係ができるように傾聴に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約締結時や事前訪問時に、ご本人の在宅での生活のことや、ご家族の希望・心配なこと等をお聞きし、支援計画書に生かしています。またご家族とラインを通し、情報交換を密にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族が何に対して心配しているのかまた何に対して希望をしているのかを確認・見極めし必要に応じて外部のサービス利用も検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者・職員は24時間一緒に時を過ごしているので、疑似家族のような関係性もできてきます。それは介護するもの・介護されるものという枠を超えて、お互いの人生を共有し、時に利用者の発する言葉の中から、人生の先輩としての知恵をいただいたりしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が気軽に相談できるような対応を心掛け、普段の生活の様子などをお知らせしたりまたラインを通じての家族の要望・相談に応じています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族友人の訪問もコロナ下でも玄関越しですが、行っています。またご家族からの電話には、ご本人も出て話をさせていただき、安心していただいています。そのほか手紙をお出しし、ご本人の近況をお知らせしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方同士を近い席に座っていただいたり、反対に性格の合わない方の席の移動をし、全体としてまとまりのある環境作りをしています。利用者同士かるた遊びをしたり、しり取りをしたりして、楽しい環境作りを目指しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても、職員を懐かしんで訪問してくれるご家族もあり、その際にご家族の近況を知り、必要に応じて相談支援を行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者によっては、地元の施設で生活をしたいとの希望のある方には、施設を調べて情報提供をしたり、また別居しているご主人を心配している方には、毎晩電話をしあい、お互いに安心していただけるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用時や入所後の会話の中から、ご本人の生活歴を知るように努めています。生活歴を知ること、今のご本人につながっていることを理解・共感して、支援につなげていければと思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のご本人との会話の中からまた職員の報告の中から、利用者の方の心の中の、発言していない思いも組み取りながら、また現在の持っている力・そして今後の経過の予測をし、よりよい支援につながるように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	サービス担当者会議・運営推進会議・スタッフミーティング・日々の報告により、介護プラン作成に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を具体的に記入し、また特に大切な情報は、朝ミーティング時に情報共有をして、必要に応じて介護計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者が気兼ねなく相談できる環境作りをしながら、その時々生じる希望・要望に応え、外出介助・通院介助などにも対応。またご家族の希望により訪問マッサージの導入もしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ以前は近所の盆踊りに行ったり、地域の公園へ行っていましたが、今はコロナの心配あり行けていませんが、お誕生日会などに地域のボランティアが来てフラダンスを披露してもらいました。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約時にかかりつけ医についての説明をし同意を得ています。入居前からのかかりつけ医を希望の方には、定期通院同行なども行っています。往診は2回/月で、グループホームの看護師が同席し説明、また助言等をもらっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設内看護師が毎日活動しており、利用者の情報交換を毎日行っています。またスタッフからの相談に乗ってもらい、アドバイスをを受けたりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族・病院・主治医との連携を図り情報提供をしています。ご家族とは頻繁に連絡を取り、経過の情報共有をしています。また必要に応じて病院での退院時カンファレンスへの参加を行い、退院後の円滑なサービス提供につなげています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期へのご本人やご家族の意向を踏まえて、施設での看取りの時期には、病院・主治医・職員との協同により、最後までご本人の安楽・平安を皆で目標に支援をしています。また重度化した場合、ご家族・主治医との意思疎通を図り、方針を共有し支援をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全ての職員が対応できるように日頃からケースの研修をし、またマニュアルを用意し、ステーションに掲げています。万が一事故が発生したときは、その原因・対処の是非を、職員で話し合い、今後の活動に生かすようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、実際に台風の時などには職員が泊まり込んで、利用者の安全確保に努めています。備蓄品の用意をし定期的に補充をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の性格や趣向を知り、その方のプライドを傷つけないような言葉がけをし、定期的に職員への評価、課題のある職員には指導をし、利用者の人格の尊重・尊厳を傷つけないように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の中から、ご本人の表出する言葉の中から、普段は表に出ない思いを察知し、またその思いを表出でき、自己決定できるように働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の意向を第一に、例えば入浴が嫌いな方へは、入浴回数について本人の意向を聞き、自己決定を尊重することで回数減にし、ご家族への説明を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	近隣の理容師さんが定期的に来ていましたが、コロナの関係で、今は手の器用な職員が髪のカットをしています。衣替えの時期には、不足な衣類・ご希望の品物等をご家族に連絡をし、持参していただいています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お誕生日会の他に節分・お正月・クリスマス・ひな祭り・節句・七夕など利用者様が一緒に楽しめるように、一緒にレクリエーションも行いながら食事を楽しんでいただいています。時には利用者様も調理やトッピングの盛り付けに参加していただいています。片付けの協力もしていただいています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の全身状態の観察・把握に努め、朝・昼・夕・10時・3時・入浴後等、随時水分の摂取に努めています。またお好みでご本人の嗜好品（牛乳等）をお出ししています。またご家族からの副食等の差し入れも受け入れており、その際はグループホームの副食の調整をし、適正なカロリー摂取に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの実施は、口腔スポンジ・マウスウォッシュ等ご本人の口腔内の状態に応じて対応しています。また必要な方には訪問歯科も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各利用者の排泄記録表を使用し、本人の排泄パターンを把握しています。そのうえでご本人への声掛け・誘導を行い、ご自分でできるところは行ってもらうように支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事は消化に良いものを心がけ、利用者ごとに排便の傾向を把握し、必要に応じて、DRへの報告・相談を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	季節に応じて、入浴剤の使用をしたり、また入浴を嫌がる方には、回数の工夫・声掛けによって意思確認したり、その方の意思決定を尊重した入浴を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の睡眠パターンを把握し、リビングの照明を徐々に落としたり、TVの音楽も穏やかなものにし。入眠しやすい環境作りをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	DRの訪問診療後、薬局の訪問時に、薬の説明を受けたりまた施設の看護師に薬の相談をしたりと、利用者の情報交換を行っています。また食後、寝る前の服薬等、チェック表を用いて、服薬漏れがないように支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お誕生日会・季節ごとの行事への参加・レクリエーションへの参加・その方によっては、食事後の後片づけのお手伝いをさせていただいたりしています。またコンビニへ買い物スイーツや嗜好品の買い物や郵便局への同行などもおこなっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日用品の買い物・郵便局・コンビニ等に同行していますが、今年はコロナ感染の心配もありますので一昨年のように盆踊りへの参加やレストランへ行ったりなどはできませんが、感染予防に努めて、なるべく時間を選んだりして同行しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者によっては、少額のお金を持って買い物をしたいという方もいますので、その時には一緒にお金の計算をしたり、さりげなく支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族との毎日の安否確認の連絡時の支援や金融機関や証券会社への問合せ時などに、本人の意図することを相手先へ説明したり、友人へのお手紙の返事などで、住所の確認や切手の手配などの支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じていただけるように玄関・食堂などには、季節に応じた飾りつけを、利用者の協力も得ながらしております。住環境への配慮として、エアコン・加湿機能の空気清浄機を各階に取り付けています。ご本人の部屋には、自身の作品を飾って楽しんでいただいています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様が集まる食堂にはソファアを置き、自由に座ってくつろいでいただいています。テーブル席も利用者様の性格に配慮し、ご本人が孤立しないように席順も気の合う方同士などの配慮をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の好きな日用品を手元に置いたり、自宅から持ち込んだ掛け軸などをかけて、居室もなるべくその方がくつろげるように配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人の力を見極め、就寝時転倒リスクのある方には低床ベッドや床にもマットレスを敷いたり・離床センサーの利用など安全に配慮しています。またトイレへ行ける方には、見守り介助をし、ADLが低下しないよう、過度な介助を控えるようにしています。		

2020年度

事業所名 太陽ケアセンター グループホームやまぶき

作成日： 令和 3 年 6 月 12 日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	コロナ下ではあるが、地域との交流が不足している傾向がある。	地域にある資源を活用した施設自身が情報は新できるようにする。	・地域の消防署で開催する「心肺蘇生方法やAEDの取り扱い方法などの講習会」への参加。 ・認知症サポーター研修への協力。	12ヶ月
2	21	利用者同士の関係性に配慮し、事前にトラブルが起きないように配慮する気配りが必要。	各利用者の性格・どういう時にトラブルになりやすいか等職員間で情報共有ができるようにする。	・フロアー内での座る位置を工夫したり、各利用者とのコミュニケーションの機会を増やし、利用者理解につなげる」。	6ヶ月
3	13	新人教育・仕事に不慣れな職員への教育が不足している。	管理者・リーダー自身が適切な指導の方法を考え、一人ひとりの適正に応じて指導をする。職場内での研修内典を充実する。	・入社後の職員研修の徹底・日々の活動の同行活動時の分かりやすい指導の徹底をしていく。 ・認知症への理解をより深める研修の充実。	6ヶ月
4	14	同業者との交流の機会を持つことが少ないと感じています。	グループホームの課題を共有して資質の向上につなげることができる。	神奈川県認知症高齢者グループホーム協会への研修に参加し、同業他社との交流を深める。	12ヶ月
5					ヶ月